

人は海の恵みを受けてきた。
こんどは海が人の恵みを受ける番だ。



□ 第2話 海域環境における自然再生

幾重もの島が織りなす、リアス式海岸の絶景。波のたたない穏やかな気候が、水面を鏡に変えている。三重県、英虞湾。古くから漁業が盛んに行われ、真珠の養殖でも知られるこの海は、豊かな自然に恵まれた「里うみ」だ。世代から世代へ、地域の方々は、海と深い関わりを築いてきた。

大成建設は、湾内の水質調査をきっかけに地域の方々と出会った。そして、英虞湾を守り続けていくために、何かできることを一緒にはじめようという想いが生まれた。地域の方々とともに取り組んだのは、干潟の再生だ。

□ヘドロを利用した干潟再生技術

海と陸とをつなぐ干潟は、さまざまな生物が生息する場所であり、同時に海の水質を浄化する貴重な働きをもっている。一方、それとは対照的に、海底に溜まるどろは、湾内の酸素不足を引き起こす要因となることから、生物や水質への影響が心配される。

英虞湾で私たちが取り組んだのは、海底に溜まる不要などろ・ヘドロを利用した、資源循環型の干潟再生だ。ヘドロを干潟の栄養源として活用する環境技術で、新たに生まれた干潟は、およそ7200m²。干潟には、カニやゴカイなど、たくさんの生物が姿を現すようになった。

現在英虞湾では、『英虞湾自然再生協議会』が設立され、地域の方々を中心に産・官・学・民が協働しながら、さまざまな環境活動が進行中だ。英虞湾は、地域とともに、新しい「里うみ」を目指して歩み始めている。

□人間と海は、あたらしい関係へとむかう

地球の7割を占める海が、自然のバランスを失いつつある。人間が海の恵みをただ受けるだけの時代が、終わろうとしている。これからは、海の恵みを受ける私たちが、海にきちんと恩返しをしていくことが必要だ。環境の再生は、人間の意識の再生でもある。大成建設は、環境技術を通じて、人間と自然があたらしい関係を築いていく力になりたい。

環境問題を考える。
ゼネコンの責任は、重い。

 **大成建設**
TAISEI
For a Lively World